

令和7年度 第1回 西九州させぼ広域都市圏協議会資料

3 議事

- (1) 連携事業のKPI評価(令和6年度実績) について 1～8ページ
- (2) 令和8年度以降の新規・拡充事業の検討について 9ページ
- (3) ハウステンボスと西九州させぼ広域都市圏との連携協定について 10～12ページ

【3 議事】 (1) 連携事業のKPI評価（令和6年度実績）について

1 連携事業のKPI評価

- ✓ 「西九州させば広域都市圏第2期ビジョン（令和6年度～令和10年度）」では、連携事業のKPI評価を毎年度行うこととしている。
- ✓ 令和7年度は、令和6年度実績評価を実施する。

[参考]

ビジョン目標及び役割・施策のKPI評価は、以下のとおり実施する。

○中間年度評価：令和8年度実績について、令和9年度に評価を実施

○最終評価：令和10年度実績について、令和11年度に実施

第2期ビジョン P20より抜粋

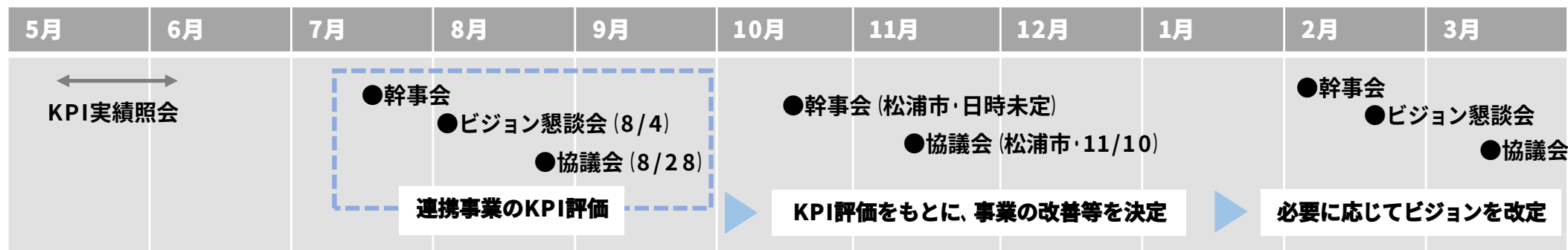
3 推進する具体的取組

第2期ビジョンの基本方針である「人口が減少しても域内で経済が循環し豊かに暮らせる圏域づくり」のもと、ビジョン目標の達成に向け、西九州させば広域都市圏の構成市町で連携し、様々な事業に取り組みます。

第2期ビジョンでは各連携事業にKPIを設定し、毎年度指標を確認することで施策KPIの達成に向けた進捗管理を行います。

2 評価の流れ

(1) 令和7年度



(2) 令和8年度以降

	R8 (第2期ビジョン3年目)	R9 (第2期ビジョン4年目)	R10 (第2期ビジョン5年目)	R11 (第3期ビジョン1年目)
ビジョン目標 役割・施策	—	〔中間評価〕 第2期ビジョン3年目であるR8 実績についてKPI評価を実施	〔ビジョン改定作業〕 中間評価を活用し、第3期ビジ ョンの改定作業を実施	〔最終評価〕 第2期ビジョン最終年度である R10実績についてKPI評価を実 施
連携事業	前年度分のKPI評価を毎年度実施	次期ビジョンの改定作業		
				同上

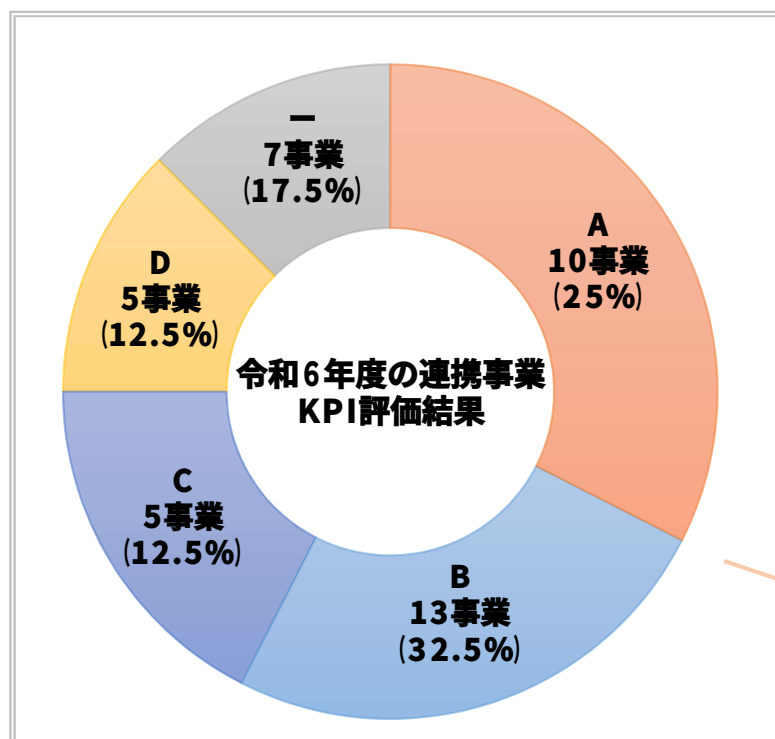
【3 議事】 (1) 連携事業のKPI評価（令和6年度実績）について

3 令和6年度の連携事業KPI評価結果

KPIの達成状況等については、以下のとおり

- KPIを設定していないなどの「評価対象外」を除いた33事業中23事業（約70%）がおおむね目標を達成（A及びB評価）
- 目標の達成に至っていないC及びD評価の10事業については、次年度に向けて改善内容を検討する

	A	B	C	D	－	合計
圏域全体の経済成長のけん引	2	1	2	1	1	7事業
高次の都市機能の集積・強化	0	3	1	0	3	7事業
圏域全体の生活関連機能サービスの向上	8	9	2	4	3	26事業
	10 (25%)	13 (32.5%)	5 (12.5%)	5 (12.5%)	7 (17.5%)	40事業



－（評価対象外）内訳

KPI設定なし事業 : 3事業
R6目標設定なし事業 : 3事業
実績に至る事象が発生しなかった事業 : 1事業※
※ №30災害時における相互応援体制の確立
(KPI: 支援実行率)

- A … 達成できた (達成率100%以上)
- B … おおむね達成できた (達成率80%以上100%未満)
- C … あまり達成できなかった (達成率60%以上80%未満)
- D … 達成できなかった (達成率60%未満)
- － … 評価対象外

【一覧】 西九州させば広域都市圏第2期ビジョン 連携事業のKPI評価 (令和6年度実績) について

№	連携事業	KPI	現状値 [R4等]	目標値 [R6]	実績値 [R6合計]	最終年度目標値 [R10]	達成率 [R6] (%)	達成率の評価 [A・B・C・D・E]	目標値に対する進捗状況・成果 KPI増減の要因分析	次年度の方向性 (維持・改善・拡充)	次年度の方向性 (内容について記載)
ア 圏域全体の経済成長のけん引											
1	西九州させば広域都市圏ビジョン懇談会等運営	全施策のKPI達成率	25%/年	—	—	—	—	— (R6目標設定なし)	【事業の進捗状況・成果】 首長ディスカッションや、HTB経営陣との意見交換の実施など、今後の広域都市圏の取組につながるような内容の会議を実施した。 【KPI増減の要因分析】 連携事業のKPIは「全施策のKPI達成率」としており、中間評価時に検証することとしている。毎年度の進捗管理ではなく、効果的な指標設定を優先している。	維持	HTBとの連携を含め、「人口が減少しても域内で経済が循環し豊かに暮らせる圏域づくり」に向け着実に取り組んでいく。
2	創業支援の連携	新規創業者数	202人/年	310人/年	195人/年	1,560人/年 (累積)	62.9%	C	【事業の進捗状況・成果】 各市町での相談対応のほか、V S I D Eの広域展開を実施できた。 【KPI増減の要因分析】 コロナ禍を一定抜けたことで増加すると予想された数ほど伸びていない。創業には一定の時間がかかることもあるが、支援機関や広域展開の周知不足も考えられる。	改善	目標値を念頭に、引き続き各市町における計画的な創業支援を実施する。V S I D Eの広域展開についても各市町における周知を強化する。
3	農水産物等特産品販路拡大	西九州食材ネットワークの会員の満足度	—	80%/年	76%/年	80%/年	95%	B	【事業の進捗状況・成果】 令和6年度から西九州食財ネットワークとしての活動が始まり、産地ツアーや展示会への共同出展を通して、効果的な農水産物の販路拡大ができた。また、定例会の開催等によるネットワーク内外での交流が生まれ、商談や新規取引に繋がったことで、ネットワーク会員の所得向上に寄与した。 【KPI増減の要因分析】 定例会を通しての異業種交流や情報交換によって新たな繋がりが生まれるきっかけづくりの場として高い満足度を得られた。一方で、あまり活動に参加できていなかったために成果が得られなかったと評価する事業者もいたことで、KPI目標値の達成には至らなかった。	維持	既存の取組に加え、イベントの開催等の観光と連携した取組を行い、更なる農水産物の販路拡大を図る。
4	共同物産展の開催	共同物産展での売上額	8,347千円/年	8,600千円/年	4,762千円/年	10,000千円/年	55.4%	D	【事業の進捗状況・成果】 「かっちえてアイラブ西九州フェア」として、佐世保市の新みなと暫定広場において10月26日(土)、27日(日)の2日間開催。9自治体から37店の出店あり。 【KPI増減の要因分析】 目標額に比して、60%未満と達成率が低い状況であり、①複数の他のイベント日との重複、②西九州道4車線化工事期間と相まって、佐世保港 イベント広場における駐車可能エリアの縮小による集客力減、等の要因が考えられる。	改善	参加自治体の増を図るため、各自治体のイベントと重複しない日程を設定。物販エリアと併せて食(グルメ)の提供を強化することで、集客力の向上を図る
5	広域連携による周遊観光の推進	圏域における観光客数	8,186,661人/年	14,838,000人/年	9,555,773人/年	14,838,000人/年	64.4%	C	【事業の進捗状況・成果】 インバウンド受け入れ体制の強化として、広域都市圏の構成市町から体験コンテンツを選出し、検証を含めた造成作業に取り組んだ。 【KPI増減の要因分析】 令和4年度まで中止となっていたイベントの再開や、主要観光施設・イベントへの来場者数増加が見られた地域が多い一方で、これまでに市町が独自に実施した旅行割引の反動減がみられた地域もあった。県内のインバウンド旅客をしっかりと掴み、広域周遊に繋げていく必要がある。 また、国際クルーズ船の効果を圏域内に波及させるため、ランドオペレーターを訪問(年6回)し、広域の観光情報の発信を行った。	改善	広域都市圏の構成市町で造成中の33コンテンツについて、磨き上げ・販路開拓を行うとともに、広域連携市町それぞれが作成している観光パンフレットの相互配置など、広域周遊のきっかけとなる取組を行っていく方針である。
6	自治体新電力を活用したGX事業の構築	本事業を通じて組成した事業費・民間投資額	—	16,500千円(累積)	24,039千円(累積)	800,000千円(累積)	145.7%	A	【事業の進捗状況・成果】 松浦市で電力の地産地消を直接支援するなど、進捗については計画通りであり、想定以上の成果を得ることができた。 【KPI増減の要因分析】 松浦市で実施中の事業が、民間投資も含め計画以上の成果を上げていることから、KPIが目標を上回る成果を上げることができた。	維持	今後も引き続き本事業を通じたGX事業の組成及び民間投資の呼び込みを行っていく。
7	圏域内企業の認知度向上	参加者に対するアンケート調査結果(認知度件数割合)	—	80%/年	80%/年	80%/年	100%	A	【事業の進捗状況・成果】 1件の補助事業を実施できた。企業、学生双方が最新の就活事情について理解を深める機会となった。 【KPI増減の要因分析】 近い距離で企業と学生が対話することができ、企業に対する認識の変化につながった。ただし、対象となるアンケート母数が少ないため、目標を達成してはいるが詳細な効果の分析までは難しい。	改善	対象となるイベントについて、より多くの若年層をターゲットとした事業となるよう、募集要件の見直しを行う。

【一覧】 西九州させば広域都市圏第2期ビジョン 連携事業のKPI評価 (令和6年度実績) について

№	連携事業	KPI	現状値 [R4等]	目標値 [R6]	実績値 [R6合計]	最終年度目標値 [R10]	達成率 [R6] (%)	達成率の評価 [A・B・C・D・ー]	目標値に対する進捗状況・成果 KPI増減の要因分析	次年度の方向性 (維持・改善・拡充)	次年度の方向性 (内容について記載)
イ 高次の都市機能の集積・強化											
8	高度な交流拠点整備の検討	—	—	—	—	—	—	(KPI設定なし)	[事業の進捗状況・成果] 本事業で検討を行った結果として、「佐世保港 交通・周遊観光の拠点整備」をR7から連携事業に追加した。 [KPI増減の要因分析] —	維持	引き続き、経済波及効果や交流人口の拡大に資する拠点整備について検討を行う。
9	佐世保市・佐々町地域公共交通活性化	地域公共交通計画の達成率	—	—	—	90%	—	(R7.3計画策定のため、R7分から評価実施)	[事業の進捗状況・成果] — [KPI増減の要因分析] —	維持	R7.3月に策定した佐世保市・佐々町地域公共交通計画に記載する取組項目に関し、法定協議会である佐世保市・佐々町地域公共交通活性化協議会の中で事業の進捗管理を行っていく。
10	世界遺産の保全活用	構成資産への来訪者数	56,658人/年	59,700人/年	49,618人/年	71,500人/年	83.1%	B	[事業の進捗状況・成果] 各市町においては世界遺産構成資産の維持管理、保存整備、活用イベントの開催等一定の活動を行うことができた。 [KPI増減の要因分析] 「リアル宝さがし〜サセボクエスト〜(令和5年度実施)」により増加していた黒島訪問者の減や、旧野首教会の工事等により、来訪者が減少したものと考えられる。競合する世界遺産が毎年増加している現状においてはより効果的・積極的なPR並びに集客対策が必要である。	改善	令和7年度以降、関係市町では長崎県の指導のもと、世界遺産構成資産へのより一層の集客を図るため、資産ごとに集客目標を設定しその達成に向けた取り組みを行っていく方針である。
11	伊万里港ポートセールスの推進	伊万里港のコンテナ貨物取扱量(実入)	33,020TEU/年	37,000TEU/年	28,225TEU/年	43,000TEU/年	76.3%	C	[事業の進捗状況・成果] 官民一体となったポートセールスやコンテナ助成金の見直し・拡充の結果、前年比684TEU増加(+2.5%)と前年を上回った。 [KPI増減の要因分析] 前年を上回っているが、近隣主要港との海上運賃差などの要因で微増という結果に留まっている。	改善	近隣市町との連携強化を図り、伊万里港の背後圏に立地している企業に伊万里港の概要やコンテナ助成制度の周知を行うなど、伊万里港の利用促進を図っていく。
12	海洋エネルギーの推進	海洋エネルギー研究所への圏域内住民の年間見学者数	88人/年	90人/年	80人/年	100人/年	88.9%	B	[事業の進捗状況・成果] 見学者数はほぼ横ばい。伊万里市外からの見学者も一定数いる。 [KPI増減の要因分析] 圏域住民への周知が必要。	改善	毎年7月に開催されるオーブンラボのポスター掲示を圏域市町へ依頼する。
13	アルベルゴ・ディフゾ(分散型ホテル)推進	分散型ホテルの供用開始数	0(延べ)	0(延べ)	0	2(延べ)	0%	— (R6目標設定なし)	[事業の進捗状況・成果] 令和4年12月に日本初のアルベルゴディフゾタウンスタートアップ認証自治体に選定された平戸市においては、令和6年9月から改修に向けた工事を実施した。 [KPI増減の要因分析] R6年度中は平戸市において改修工事が実施され、R7年6月から共用開始されている。	拡充	平戸市のアルベルゴ・ディフゾタウンのポジショニングに関しては、想定セグメントのターゲットに対して九州北部エリアで大自然・交流型かつアドベンチャー・ツーリズム、ガストロノミーツーリズムのコンテンツも踏まえた形で訴求し、独自のポジショニングの確立を目指す方針である。 佐世保市においては、現在、北九十九島エリアマネジメントとして、各地域における体験プログラムの造成等の磨き上げや地域ごとの賑わいづくりや情報発信等に取組んでいる。 令和8年度については、拠点づくり並びに北九十九島エリアの地域間連携に取組むこととしている。
14	佐世保中央公園の利用促進	中央公園の来園者数	310千人/年	363千人/年	338千人/年	—	93.1%	B	[事業の進捗状況・成果] 運営3年目までに培ったノウハウを活かし、「育てる公園」のコンセプトのもと、各施設やコンテンツ及びイベントのブラッシュアップを行いながら公園利用者の憩いの場となるような取組を行い、利用促進に繋がった。 [KPI増減の要因分析] 公園の利用者数が伸び悩んでいる傾向があるが、近年の猛暑の影響や、カフェや飲食店などのテナントにおける人手不足による営業日の減少、物価高騰に伴う価格改定(値上げ)等により、テナント集客が伸び悩んでいるものによると分析される。	維持	施設運営やイベント開催において、新たな取組を構築し、賑わい創出につながる施設を目指す。

【一覧】 西九州させば広域都市圏第2期ビジョン 連携事業のKPI評価 (令和6年度実績) について

№	連携事業	KPI	現状値 [R4等]	目標値 [R6]	実績値 [R6合計]	最終年度目標値 [R10]	達成率 [R6] (%)	達成率の評価 [A・B・C・D・ー]	目標値に対する進捗状況・成果 KPI増減の要因分析	次年度の方向性 (維持・改善・拡充)	次年度の方向性 (内容について記載)
ウ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上											
15	地域医療の確保に関する取組	関係市町内の救急搬送車に占める軽症者の割合	31.9%/年	31.9%/年	31.9%/年	31.9%/年	100.0%	A	〔事業の進捗状況・成果〕 第2期ビジョンから取り組む中高生向け講演会や病院体験学習においては課題がみられたものの、救急車利用に係る住民啓発については、救急搬送件数は増加傾向にある中、実績値は目標値と同等となり、一定事業効果が認められているとの認識にある。 〔KPI増減の要因分析〕 全体では目標値は達成しているものの、構成市町個別においては達成状況にバラつきがある。また、高齢化等により、救急搬送件数の増加に伴って軽症者搬送の割合件数も増加傾向にある。	維持	・#7119及び#8000の利用推奨を行うとともに、適正な救急要請に努めるよう広報誌、住民対象講演会等で広く住民周知を継続して行う。 ・併せて、第2期ビジョンより連携事業として取り組むこととした、中高生を対象とした地域医療への関心を醸成することを目的とした講演会の開催や、将来、医療従事者を目指す学生の病院体験学習会等を行う。
16	在宅医療・介護連携推進	関係市町において訪問診療を受けた(延べ)患者数	30,500人/年	31,900人/年	31,498人/年	33,700人/年	98.7%	B	〔事業の進捗状況・成果〕 〔多職種連携研修会〕 R6年度は、R元年度以来の集合研修を2回(佐世保会場85名参加、伊万里会場202名参加)開催し、アンケート回答者から「参考になった、患者さんとの関わり方など勉強になった(佐世保会場)、多職種の顔が見える関係性の構築強化の重要性を再認識したなど(伊万里会場)」との回答があり、多職種連携の推進・強化に寄与することができた。 〔市民啓発公開講座〕 R6年度は、R元年度以来の対面式講演を1回(メイン会場(佐世保市125名参加)、サテライト会場(各市町7ヶ所198名参加)開催し、アンケート回答者から「今までで考えたことがなかったので、非常にいい機会になった。初めて、もしバナゲームを体験できてよかった。」など回答があり、市民への啓発に寄与することができた。 〔KPI増減の要因分析〕 在宅医療提供体制の構築を目指す本事業において、R4年度(30,500名)と比べ、約1,000名近く増加し、達成率は98.7%と高く、一定の成果は認められるものの、取り組む医師の顕著な増加はなく、負担軽減という面において課題が残っているものと考ええる。	維持	引き続き、以下の研修会、講座を開催する。 〔多職種連携研修会〕 佐世保会場 令和7年9月6日(土)14:00～労働福祉センター 「多職種連携を活かしたACP(人生会議)の取り組み方ー令和6年度診療報酬改定をめぐる誤解と混乱にも触れつつー」 宮崎大学医学部教授 板井孝彦郎先生 講演とグループワーク 松浦会場 令和7年11月8日(土)14:00～松浦市文化会館 「自分らしい暮らしを人生の最期まで～望む場所での看取りに向けて～在宅医療の現場から」 医療法人にのさくりクリニック理事長 ニノ坂保喜先生 講演後ACP動画上映、グループワーク 〔市民啓発公開講座〕 佐世保会場(対面式)・各市町会場(Web配信) 令和8年2月8日(日)14:00～アルカスSASEBO 「認知症とともによりよく生きるについて考える」 医療法人すずらん会 たろうクリニック理事長兼院長 内田直樹先生
17	障がい福祉サービスの充実	研修参加者の研修内容理解度	94%/年	100%/年	95%/年	100%/年	95%	B	〔事業の進捗状況・成果〕 研修の内容を共有することによって、理解度が深まり障がい福祉サービスの質の向上につながっている。 〔KPI増減の要因分析〕 研修の回数を重ねることで研修の質が向上した。	維持	今年度と同様に次年度も近隣自治体と研修内容を共有し理解度を深めることで障がい福祉サービスの充実に図っていく。
18	療育機能の改善	関係専門職の事業内メニューに対する実効感評価	—	平均点4以上/年 (5段階評価)	5点/年	平均点4以上/年 (5段階評価)	100%	A	〔事業の進捗状況・成果〕 LD学習会を2回、リハビリ連絡会を2回、リハビリ研修会を1回実施した。いずれも当センターあるいは外部の専門講師による講義や情報交換・意見交換等を行い、参加者の療育に係るスキル習得及び向上に寄与した。 〔KPI増減の要因分析〕 連携市町の専門職が積極的に参加されており、充実した事業となっている。	維持	療育機能の改善に係る研修会は、様々なテーマにより取り組んでいる。R6以前にテーマとしなかった内容をテーマとして掲げ、更なる知識の習得及び向上を目指すこととする。
19	病児・病後児保育室の利用に関する連携	関係市町内病児・病後児保育施設の利用人数に占める相互利用者の割合	4.58%/年	5.10%/年	7.03%/年	6%/年	137.8%	A	〔事業の進捗状況・成果〕 圏域内の病児・病後児保育施設の相互利用を可能とし、居住地や勤務先に近い施設を利用できるなど、利用者の需要に合わせたサービスの提供を行うことができた。 〔KPI増減の要因分析〕 制度開始(R3.4)から4年度目であり、圏域内において当該制度が浸透してきたため。	維持	病児・病後児保育施設の相互利用を可能とし、居住地や勤務先に近い施設を利用できるなど、利用者の需要に合わせたサービスの提供を行う。

【一覧】 西九州させば広域都市圏第2期ビジョン 連携事業のKPI評価 (令和6年度実績) について

№	連携事業	KPI	現状値 [R4等]	目標値 [R6]	実績値 [R6合計]	最終年度目標値 [R10]	達成率 [R6] (%)	達成率の評価 [A・B・C・D・ー]	目標値に対する進捗状況・成果 KPI増減の要因分析	次年度の方向性 (維持・改善・拡充)	次年度の方向性 (内容について記載)
20	幼児教育センターのサービス提供	研修会・講演会内容の活用意向率	—	100%/年	100%/年	100%/年	100%	A	【事業の進捗状況・成果】 幼児教育センター主催の研修会・講演会のアンケートにより、今後の乳幼児教育や保育に活用したいと思われた意向を指標化するもの。 R6年度、連携市町対象の研修会等は3回で、全27アンケートの回答であった。すべてのアンケートにおいて、今後、乳幼児教育や保育に活用したいとの意向であった。(100%) 【KPI増減の要因分析】 増減においての要因ではないが、今後の課題としては、連携市町において、研修会・講演会に対する参加数がまちまちであることに対し、意識向上を考える必要がある。	維持	・引き続き、佐世保市幼児教育センターにおける事業説明・等を行い、乳幼児教育、保育への参画を進めていく。 ・連携市町と意見交換を行うなど、積極的な参加と活用意向の意識高揚に繋げていく。
21	ファミリー・サポート・センターの充実	提供会員の新規登録者数	9人/年	11人/年	10人/年	15人/年	90.9%	B	【事業の進捗状況・成果】 市町に広報を行い、年3回の会員養成講座を実施したが、目標達成に至らなかった。 【KPI増減の要因分析】 会員養成講座を年度内に全科目受講した方が少なかったことが要因と考えられる。	改善	提供会員になるための会員養成講座の受講者数を増やす工夫として、これまで行っている「広報誌」、「ホームページ」、「Instagram」での広報に加え、タウン誌などにも掲載し周知をあまねく伝えられるよう考えている。 他に、受講はしたものの諸事情により全科目の受講とならず提供会員登録に至らない方もいらっしゃるため、補講と会員登録への誘導の工夫も必要と考えられる。 具体的には、録画講義の更新を行いオンラインでの受講や次回開催の連絡に公式LINEチャットを用いることなどを考えている。
22	図書館相互レベルアップ(研修・講習会の共同開催)	図書館の貸出利用者数(延べ)	354,003人/年	480,000人/年	352,008人/年	480,000人/年	73.3%	C	【事業の進捗状況・成果】 ・年2回の講習会を開催。 ・各自治体の職員を含んだ71名が参加した。 【KPI増減の要因分析】 ・各市町において減少傾向に歯止めがかからない状況。 ・図書館職員のスキル等の向上が図書貸出に直接影響しない現状が見受けられる。 ・研修会開催自治体において業務増となっており、負担となっている。	改善	・廃止、見直しを含め各市町と協議を進める。
23	図書館相互利用サービス	図書館の貸出利用者数(延べ)	354,003人/年	480,000人/年	352,008人/年	480,000人/年	73.3%	C	【事業の進捗状況・成果】 ・年間24回、配送車を運行。 ・780冊の図書の配送を行った。 【KPI増減の要因分析】 ・各市町において減少傾向に歯止めがかからない状況。 ・利用数について自治体間で開きがあり、利用者カード作成時に周知を強化する必要がある。	改善	・サービス周知の強化を行い継続。
24	少年科学館事業・理科学習支援	関係市町の魅力の周知度	—	70%/年	40%/年	90%/年	57.1%	D	【事業の進捗状況・成果】 広域圏対象事業として次の4事業を行った。 ①理科学習支援事業 ②ふるさと教室の実施 ③夏フェス(イベント)の実施 ④プラネタリウム無料券配布 【KPI増減の要因分析】 各市町の魅力の周知が不十分である。	改善	次の内容について、周知・広報の観点から改善を行う。 ①理科学習支援におけるふるさと学習 ②夏フェスのイベント内容 ③プラネタリウム番組の編成
25	サテライトあすなろ教室(教育支援教室)運営	対応児童生徒数	445人/年	745人/年	1,055人/年	745人/年	141.6%	A	【事業の進捗状況・成果】 児童生徒にとって身近な居場所として、サテライトあすなろ教室の利用が増加した。 【KPI増減の要因分析】 需要が高まり開設箇所・回数を増やしたことで、対応児童生徒数が大幅に増加した。	維持	今後も需要に応じて充実した支援体制を維持していききたい。
26	中心市文化芸術プログラムの広域連携	各文化芸術プログラムに参加した市町数(延べ)	11/年	11/年	12/年	15/年	109.1%	A	【事業の進捗状況・成果】 中学生を対象として島美特別展<ダリ展>、小学5年生を対象として芸術鑑賞体験教室を開催し、圏域の小中学生が質の高い文化芸術に触れる機会を創出した。 【KPI増減の要因分析】 各文化芸術プログラムの参加自治体数：島美特別展<ダリ展>10、芸術鑑賞体験教室：2 R6年度から西海市が島美特別展への参画をしたことにより、KPIの目標を上回ったもの	維持	実施元の(公財)佐世保地域文化事業財団や連携市町と必要な調整をしつつ、小中学生を対象に、質の高い文化芸術に触れる機会の提供を行う。 今後、財源枯渇の問題が出てくるため、関係市町からの負担金の在り方やプログラムの内容を工夫しながら、進めていく。

【一覧】 西九州させば広域都市圏第2期ビジョン 連携事業のKPI評価 (令和6年度実績) について

№	連携事業	KPI	現状値 [R4等]	目標値 [R6]	実績値 [R6合計]	最終年度目標値 [R10]	達成率 [R6] (%)	達成率の評価 [A・B・C・D・－]	目標値に対する進捗状況・成果 KPI増減の要因分析	次年度の方向性 (維持・改善・拡充)	次年度の方向性 (内容について記載)
27	スポーツ施設相互利用検討	—	—	—	—	—	—	(KPI設定なし)	[事業の進捗状況・成果] ・R7～8に新設するスケボーパークの相互利用について、関係市町に提案を行い、アーバンスポーツの振興促進について認識を共有した。 ・スポーツ施設全体の相互利用を進めるにあたり予約から利用までの流れなどの情報共有を行った。 [KPI増減の要因分析] —	維持	スケボーパーク供用開始にあたり、関係市町へ施設利用の周知等を行う。
28	栽培漁業の広域連携	計画種苗に対する供給率	85%/年	100%/年	97.4%/年	100%/年	97.4%	B	[事業の進捗状況・成果] 各連携市の要望種苗数は概ね計画的に供給できている。 [KPI増減の要因分析] 実績値が減少した市町については、先方からの申し出により放流予定数量の減要望があり計画数から減少したものの、減少後の放流数については、希望どおりの数を提供。 一方、増加した市町は、計画数より多く放流希望があったものであるため、双方の希望数は放流実施できている。	維持	次年度も連携市町の放流希望数の種苗を安定供給できるよう努める。
29	赤潮監視装置設置	赤潮による漁業被害の件数	0件/年	0件/年	1件/年	0件/年	0%	D	[事業の進捗状況・成果] 赤潮監視装置について、佐世保市に2基、平戸市に1基設置し、広域を監視することで赤潮被害の軽減を図った。 [KPI増減の要因分析] 佐世保市で1件被害が発生したため、0%とした。R6年度は長崎県全体で過去最大赤潮被害が発生。佐世保市においても赤潮が発生し、監視装置を最大限活用し被害軽減を図ったが、赤潮の規模が大きかったことから、1件被害が発生した。一方で、長崎県全体での赤潮被害額が約16億円であったことに対し佐世保市の被害額は約0.17億円で、監視装置を導入したことによる効果は発揮できたと考えられる。	改善	引き続き連携市町において赤潮監視装置を設置することで、移動する赤潮の監視体制を維持し、赤潮被害軽減に努める。
30	災害時における相互応援体制の確立	関係市町における支援実行率	—	100%/年 (又は実績なし)	実績なし	実績なし	実績なし	— (実績に至る事象発生なし)	[事業の進捗状況・成果] 令和6年10月30日、相互応援にかかる実務担当者会議を開催、各市町の防災体制等について情報共有するとともに、相互応援体制の確立について提案、協議した。 [KPI増減の要因分析] 相互応援を要する大規模な災害はなかった。	維持	令和7年度は、災害時における相互応援体制の充実強化をテーマとした職員研修会を実施、構成市町による協議を重ね相互応援の実行性を高める。
31	防災行政に関する情報の共有及び職員の資質向上	研修参加職員の理解度	—	100%/年	94%/年	100%/年	94%	B	[事業の進捗状況・成果] 平成7年1月31日、構成市町の職員を対象とした防災講習会を開催、災害時要配慮者にかかる対策等について職員の理解を深めた。 [KPI増減の要因分析] アンケート集計の結果、31名中29名が理解できたと回答した。	維持	ビジョン№30 (災害時における相互応援体制の確立) を推進するため、構成市町の防災行政 (体制) 等に関して情報を共有するとともに、相互応援にかかる職員の資質向上を図る。
32	圏域内のエコライフ推進 (「させばエコラボ」環境啓発ツールの広域展開)	環境啓発ツールを活用した講座やイベント等の参加者数	—	620人/年	189人/年	620人/年	30.5%	D	[事業の進捗状況・成果] R6年度は本市と平戸市が実施 [KPI増減の要因分析] 新規取組のためか、検討にとどまり実施まで結びつかなかった自治体が多くみられた。 参加者数も想定より少ない結果となった。	改善	実施自治体数が少なく、イベントへの参加者数が伸びなかった点について、参画されている自治体が実施できるよう、サポートや他のコンテンツ紹介について検討が必要
33	ごみの広域処理に関する研究	—	—	—	—	—	—	(KPI設定なし)	[事業の進捗状況・成果] ごみ処理広域化に係る現状分析及び課題抽出を行った。 ・災害廃棄物処理に係る流れ (フロー) の整理に向けた検討を行った [KPI増減の要因分析] —	維持	・令和6年度に実施した分析結果や課題を踏まえ、解決方法や集約化に向けた方策について各市町と検討を深めていく ・災害廃棄物処理の相互支援に関する役割や手続等について、各市町及び長崎県との調整・整理を行う

【一覧】 西九州させば広域都市圏第2期ビジョン 連携事業のKPI評価 (令和6年度実績) について

№	連携事業	KPI	現状値 [R4等]	目標値 [R6]	実績値 [R6合計]	最終年度目標値 [R10]	達成率 [R6] (%)	達成率の評価 [A・B・C・D・ー]	目標値に対する進捗状況・成果 KPI増減の要因分析	次年度の方向性 (維持・改善・拡充)	次年度の方向性 (内容について記載)
34	広域圏サポーターの拡大	関係市町の移住者数	514人/年	500人/年	483人/年	500人/年	96.6%	B	【事業の進捗状況・成果】 特設移住サイトの充実、PR冊子の制作、首都圏等で開催されるイベントでの広域圏PRなどを実施。サポーター(メルマガ)登録の推進に努めた。 【KPI増減の要因分析】 連携事業としてのPRや、県主催の移住相談会での連携したPRなどにより広域圏の周知は図ったことで、目標値の9割を超える移住実績に繋がったと分析する。	維持	・引き続き、特設移住サイトの内容充実や首都圏でのPRなど、広域圏の魅力発信を実施し、移住・定住、関係人口創出を図る。
35	移住・定住連携窓口の広域圏活用	関係市町の移住者数	647人/年	640人/年	712人/年	640人/年	111.3%	A	【事業の進捗状況・成果】 窓口で各市町のパンフレット設置などにより、情報発信を実施。 【KPI増減の要因分析】 連携事業としてのPRや、県主催の移住相談会での連携したPRなどにより広域圏の周知は図ったことで、目標値達成に繋がったと分析する。	維持	・引き続き、各市町のパンフレット設置や、移住希望者等の各市町への橋渡しなど、連携の中心市として佐世保市の窓口業務を継続する。
36	離島地域の移住・観光における広域連携の研究	関東圏での移住相談件数	8/年	12/年	10/年	30/年	83.3%	B	【事業の進捗状況・成果】 全国の島の祭典「アイランダー」の開催日程に合わせて、東京駅前の移住・交流情報ガーデンにて三島連携移住相談会を開催したが、実績値のとおり目標相談件数には到達できなかった。 【KPI増減の要因分析】 事前にメルマガ等で開催周知を行っていたが、平日の昼間に実施したため、多くの来場者数を得ることができなかった。 開催日や時間帯を検討する必要がある。	改善	当初の支出を伴う連携について、見直すこととなった。 今後は移住等に効果的な事業内容をゼロベースで再協議し、新上五島町・小値賀町・宇久町(佐世保市)三島連携のリスタートを行う。
37	男女共同参画啓発	セミナー等参加者数	17人/年	30人/年	28人/年	70人/年	93%	B	【事業の進捗状況・成果】 オンラインで性教育セミナーを実施。受講後の感想からは、受講者の満足度は高く、男女共同参画への関心が深まっていることが伺える。 【KPI増減の要因分析】 佐世保市以外の市町での参加者が少なかった。	維持	連携市町と意見交換を行うなどして、事業の実施方法を検討し、積極的な参加に繋げていく。
38	人事交流制度による職員のスキルアップ・意識醸成	人事交流の実施率	0%/年	100%/年	0%/年	100%/年	0%	D	【事業の進捗状況・成果】 関係市町との意向調査や連絡調整ができていない状況にあるため、実施が必要である。 【KPI増減の要因分析】 人事交流制度の実施以外では、DX関係の担当者同士のつながりを発端に広域都市圏向けの合同講演・研修会が開催されるなど、実務上の交流が実施されているものもある。 (第1回R7.1、第2回R7.5／旅する副町長講演会等)	改善	関係市町間の意向調査、具体的なマッチングなどを実施する。
39	教職員研修の共有連携(教育センター研修の活用)	受講者の研修目標達成率	—	100%/年	100%/年	100%/年	100%	A	【事業の進捗状況・成果】 ・10回の研修に連携市町から50名以上の方が参加され、圏域の教員の資質向上に寄与することができた。 【KPI増減の要因分析】 ・教育界の動向や教職員のニーズを踏まえた研修を実施したことによるものが大きい。研修内容自体も、理論や実践例があり、すぐに伝える内容が多かったことも大きい。	維持	教職員のニーズに応じた多彩な内容の研修を実施することで、受講者の満足度の向上に努めたい。
40	公民連携プラットフォームの形成	プラットフォームへの参加者数	141人/年	154人/年	142人/年	180人/年	92.2%	B	【事業の進捗状況・成果】 佐世保プラットフォームを開催(3回)セミナーや事業説明及び官民対話を実施し、PPP/PFIの知識を深め、案件形成を進めることができた。 【KPI増減の要因分析】 連携市町における佐世保PPPプラットフォームの活用が少なく、参加人数が伸びていない。	維持	・引き続き、佐世保PPPプラットフォームでの事業説明、サウンディングの実施等を行い、PPP/PFIの理解、導入案件の検討や案件への参画を進めていく。 ・連携市町と意見交換を行うなど、積極的な活用に関心を持っていく。

【3 議事】 (2) 令和8年度以降の新規・拡充事業の検討について

・アイデア出しレベル
(今後、各市町における内容検討・精査を経て、協議会での確認・決定のプロセスを要する)

令和8年度事業に関し、新規・拡充を検討しているものなどは以下のとおり。今後、協議を進めていく予定。

ビジョン役割	施策	種別	事業名	事業概要
圏域全体の経済成長のけん引	戦略的な観光施策	拡充 or 新規	広域連携による周遊観光の推進	ハウステンボスとの連携した取り組みの実施。 ※議題(3)の内容を参照
高次の都市機能の集積・強化	その他、都市機能の集積・強化に係る施策	新規	産官学連携拠点施設設置に関する検討	佐世保工業高等専門学校の立地や長崎国際大学理工系学部の新設等を背景として、地域産業の振興、人材の地元定着、企業誘致促進などを目的に産官学連携拠点の設置に関する検討を行うもの。
圏域全体の生活関連機能サービスの向上	教育・文化・スポーツ	新規	歴史街道プロジェクト	圏域の歴史的資産にかかわりのある市町担当課等によるプラットフォームを形成し、幅広い連携を図りながら、観光や物産、教育分野に活かしていくもの。

その他、令和9年度以降の事業化を目指し継続して検討するもの

① 倭ヶ浦半島全体の自然観光公園化

▶現在、パートナー事業者の選定手続き中。

令和8年度中にパートナー事業者と共に半島マスタープランを策定し、その後、プランを踏まえ、個別事業の内容が明らかとなる時点で、広域連携事業への位置づけを検討する。

② 広域都市圏における賑わい等の創出に向けたスポーツ拠点施設の整備

▶令和7年度、佐世保市の主要なスポーツ施設の再整備について、佐世保市及び西九州させば広域都市圏の賑わい等の創出といったまちづくりの観点から、官民連携可能性も含めた施設整備に係る方針検討に着手。

その結果を受け、各施設における具体の整備内容が明らかとなる時点で、広域連携事業への位置づけを検討する。

【3 議事】 (3) ハウステンボスと西九州させぼ広域都市圏との連携協定について

1 主な経緯

① IR不認定後の協議会(首長会)での意見

- ・ IR不認定となった今こそ、ハウステンボスを核とした周遊観光に取り組むことが不可欠。
- ・ ハウステンボス経営陣の方と実際にお話する機会を設けていただき、我々に足りないところや持っている魅力などをお互いに共有することができれば、周遊の課題解決になり、また今後我々もその点に注力していけるのではないかと。

② 令和6年度第3回協議会(首長会) 令和7年3月28日(金)

- ・ ハウステンボス高村社長の特別講演あり
- ・ その後、ハウステンボス経営陣と首長との意見交換を実施
 - ▶ 意見交換のなかで、ハウステンボスと広域都市圏との連携協定締結を、という方向性が示される

ハウステンボスとの連携協定締結に向けた検討

③ 令和7年度第1回協議会(首長会) 令和7年8月28日(木)

- ・ 協議会開催後、ハウステンボスと西九州させぼ広域都市圏との連携協定の締結式を実施

日時	令和7年8月28日(木) 16:00~17:00
場所	ハウステンボス ホテルヨーロッパ レンブラントホール
出席者	ハウステンボス株式会社 高村社長 西九州させぼ広域都市圏 連携市町の首長

広域周遊観光の取り組みイメージ

魅力ある観光資源の面的ネットワーク化、宿泊施設を含む受け入れ整備促進など、圏域全体を長期滞在できるエリアとするための取組を促進



- ハウステンボス入場者について広域周遊を促進
- 圏域内滞在期間(宿泊数)の増加
- 交流人口増加による外貨獲得及び圏域内の経済循環

【3 議事】 (3) ハウステンボスと西九州させば広域都市圏との連携協定について

2 連携協定書 (案)

ハウステンボス株式会社及び西九州させば広域都市圏との
広域周遊観光の促進に関する連携協定書 (案)

ハウステンボス株式会社 (以下「ハウステンボス」という。) 及び西九州させば広域都市圏 (以下「圏域」という。) は、以下のとおり協定 (以下「本協定」という。) を締結する。

(目的)

第1条 本協定は、ハウステンボス及び圏域がそれぞれに有する資源を有効活用し、相互に連携しながら、この圏域全体を長期滞在エリアとして魅力を向上させることを目的とする。

(連携及び協力の内容)

第2条 ハウステンボス及び圏域は、次に掲げる分野について連携し、協力するものとする。

- (1) 広域周遊観光及び滞在期間延伸を促進するための戦略的・効果的な連携事業の実施に関すること。
- (2) 圏域の資源 (食、歴史・文化、自然) を活用した観光コンテンツの開発に関すること。
- (3) 旅行者を圏域へ呼び込むためのブランディング及びプロモーションの推進に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

(協議事項)

第3条 ハウステンボス及び圏域は、前条に規定する連携及び協力の具体的な内容、実施方法その他必要な事項については、その都度協議して定めるものとする。

(情報保護)

第4条 ハウステンボス及び圏域は、連携及び協力に当たり知り得た秘密事項について、第三者に開示又は漏えいせず、また本協定の目的外に利用してはならない。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りでない。

(期間)

第5条 本協定の有効期間は、締結の日から令和8年3月31日までとする。ただし、期間満了の1か月前までに、ハウステンボス又は圏域いずれからも更新しない旨の申出がない場合には、同一条件をもって1年間更新するものとし、以後も同様とする。

(その他)

第6条 本協定に定めのない事項及び本協定に関し疑義が生じた事項については、ハウステンボス及び圏域が協議の上、定めるものとする。

本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、ハウステンボス及び圏域それぞれ署名の上、各1通を保有する。

令和 年 月 日

佐世保市ハウステンボス町1-1
ハウステンボス株式会社
代表取締役社長執行役員 CEO

※ ※ ※ ※ ※ (署名)

佐世保市八幡町1番10号
西九州させば広域都市圏協議会会長
(佐世保市長)

※ ※ ※ ※ ※ (署名)

3 【参考】関連する現行の連携事業

〔西九州させば広域都市圏ビジョン（第2期）から抜粋〕

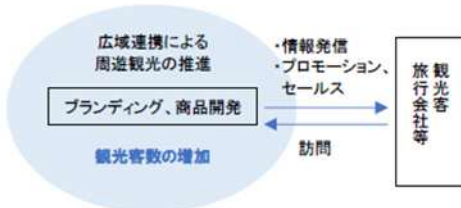
NO 5 広域連携による周遊観光の推進

KPI（重要業績評価指標）

	現状値(令和3年度)	目標値(令和10年度)
圏域における観光客数	8,186,661人/年	14,838,000人/年

〔事業概要〕

- ・ 圏域内に点在する観光施設や体験メニュー、イベントなど観光素材の棚卸を行い市場の特性に応じた磨き上げに取り組みながら旅行商品化を図る。
- ・ 本圏域で最大の集客力を誇るハウステンボスの来訪客の取り込みを含め、広く圏域内の周遊促進につなげる。
- ・ 圏域内の観光素材を活用した観光客へのプロモーションを行い、佐世保市を起点とした域内周遊観光の促進による地域経済活性化を図る。



関係市町構成数	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12

連携による効果	造成した旅行商品を機に来訪した観光客の周遊による圏域の経済活性化												
---------	----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業費見込額(千円)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	合計
	16,754	16,754	16,754	16,754	16,754	83,770

国及び県補助制度等	—												
-----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

役割分担	佐世保市	圏域内のコンテンツ造成・販路開拓・プロモーション等にかかる企画立案と各関係市町との調整を行う。
	関係市町	観光素材の棚卸・磨き上げによるコンテンツ造成(事業者、団体等との調整)を行う。

事業概要

(1) インバウンド向けコンテンツ造成事業(5か年計画/R6~R10)

- ① 各市町のコンテンツ造成(33コンテンツ抽出)
- ② 市場調査



▶ 令和7年度はコンテンツのブラッシュアップを行い、一部コンテンツは販売を開始する

(2) ドライブウェブサイト関連事業

- ① サイト維持管理、情報発信



▶ 過去4年(R3~R6)は香港・台湾・韓国向けの情報発信を実施
令和7年度は国内向け情報発信を実施する